



令和6年2月26日

各位

会社名 オエノンホールディングス株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 西永 裕司  
 (コード番号 2533 東証プライム市場)  
 問合せ先 コーポレートコミュニケーション室長  
 田中 直子(TEL 03-6757-4584)

上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況について

当社は、令和5年3月22日に、プライム市場の上場維持基準への適合に向けた計画を提出し、その内容について開示しております。令和5年12月31日時点において、計画に基づく取組みにより、すべての上場維持基準に適合しましたので、お知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準への適合状況の推移

当社の令和5年12月31日時点におけるプライム市場の上場維持基準への適合状況はその推移を含め、下表の通りであります。令和5年3月22日付で開示した計画書においては、「流通株式時価総額」が基準に適合していませんでしたが、計画書に基づく取組みを進めた結果、全ての上場維持基準に適合することとなりました。これにより、プライム市場の上場維持基準の全ての項目に適合いたしました。

		株主数	流通株式数	流通株式時価総額	流通株式比率	純資産の額
当社の適合状況及びその推移	令和4年12月31日(基準日)	10,842人	318,789単位	88.3億円	48.6%	196.0億円
	令和5年12月31日時点	11,327人	319,949単位	121.8億円	48.7%	222.2億円
上場維持基準		800人	20,000単位	100億円	35%	純資産額が正
当初の計画に記載した計画期間				令和5年12月末		

※ 東京証券取引所が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出したものであります。

2. 上場維持基準の適合に向けた取組みの実施状況及び評価

当社は、上場維持基準の適合に向けて、「流通株式時価総額の向上」を基本方針とし、「流通株式時価総額」の構成要素である「株価」及び「流通株式数」の向上に向けた取組みを進めてまいりました。

(1) 株価の向上

当社は、令和3年12月期より2期連続減益を続けており、特に令和4年12月期の純損失計上は市場評価を低下させる大きな要因となったと考え、企業としての持続的成長を描く「長期ビジョン100」で掲げた5つの柱(「焼酎事業に集中」「アルコール事業 販売の拡大」「酵素医薬

品事業の新展開」「生産改革」「CRE戦略」)を軸に、4つの課題(「獲得利益の最大化」「コスト低減」「生産の見える化・コミュニケーションの活性化」「社会課題の解決」)に取り組むことで、令和5年2月10日付の令和5年12月期連結業績予想数値を達成し、市場での適正な評価を得て、株価向上に繋げることを目指しました。

これらの取組みの結果、令和5年12月期連結業績は、業績予想数値を上回り、株価は大幅に向上いたしました。なお、令和4年12月期実績、令和5年12月期実績及び各期末時点の株価は下表のとおりであります。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	株価※1
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
令和4年12月期	81,120	△707	△645	△1,257	257
令和5年12月期	84,947	3,585	3,702	3,393	354
増減	+3,826	+4,292	+4,348	+4,650	+97

※1 株価は、各期の基準日における東京証券取引所の当社普通株式の普通取引の終値であります。

## (2) 流通株式数の増加

流通株式時価総額の向上のためには更なる流通株式数の増加が必要と考え、自己株式の取締役向け株式給付信託への第三者割当や、事業法人への当社株式の流動化に向けた働きかけ、個人株主との交流会「社長と語る会」の実施等の取組みを進めてまいりました。

これらの取組みの結果、令和5年12月31日時点の流通株式数は、下表のとおり増加いたしました。

	流通株式数	流通株式比率
	単位	%
令和4年12月31日(基準日)	318,789	48.6
令和5年12月31日時点	319,949	48.7
増減	+1,160	+0.1

今後も、グループの持続的成長及び中長期的な企業価値最大化を目指した取組みを継続して実施することで、プライム市場の上場維持基準への適合の維持を図ってまいります。

以上